

くのへ 議会だより

Vol.222

令和3年9月1日
発行



明るい未来

(写真説明16ページ)

令和3年第2回定例会(令和3年6月定例会)

も く じ ● C O N T E N T S

主な補正予算.....	2	一般質問に7人が登壇・村政を問う.....	8
こんなことが決まりました.....	4	小さな太陽・明日をひらく子どもたち《九戸中学校》.....	16

高齢者世帯への配食サービス継続を決定

一般会計に5296万円を追加

令和3年第2回定例会は、6月15日から21日までの7日間の会期で開かれました。村長から提案された議案は、専決処分の承認、人事、条例、財産取得、補正予算などの21件で、慎重に審議の結果、すべて原案のとおり可決されました。

一般質問には7人が登壇し、道路拡張整備、小学校統合、林業振興、村総合発展計画、村政運営、新型コロナウイルス対策、オドデ館経営などについて、幅広く村政をただしました。

主な補正予算

〔役場1階入口への案内板〕

役場庁舎1階の自動ドア及びエレベーターへの案内板を設置します。↓20万9000円

〔高齢者世帯への配食支援〕

高齢者世帯への配食サービスを、9月末まで継続します。↓460万4000円

〔甘茶栽培への支援〕

甘茶の乾燥機を購入します。↓256万7000円



飲食業者支援と高齢者見守りを目的とした高齢者世帯への配食サービス



案内板が設置される役場1階入口付近

〔低所得子育て世帯を支援〕

低所得子育て世帯に対し、児童1人当たり5万円を支給します。↓468万5000円



村の特産品として期待される甘茶

行政報告が行われました

令和3年第1回定例会(3月定例会)以降の行政執行について、村長から行政報告が行われました。

〔伊保内高校支援〕

入学者確保のため、学校紹介のパンフレットや動画の作成などを行います。
↓134万5000円

〔太陽光の街路灯を設置〕

中学生からの提言に基づき、クリーンエネルギーの普及啓発を目的として設置します。
↓1074万6000円

◆ 主な質疑 ◆

- 太陽光による街路灯は、どこに設置するのか。
- 昨年、中学生を対象としたナインズミーティングで要望のあった細屋地区に設置する。
- 今後、他の地区に太陽光による街路灯を設置する予定があるか。
- 県の事業を導入し設置するもので、県や要望がある自治会と協議しながら、できるだけ導入していきたい。

行政報告

- 地域おこし協力隊・企業人 4月には、九戸村として初めて地域おこし協力隊・企業人を県内外から合わせて11名任命した。
- 新型コロナウイルス ワクチン接種 65歳以上の高齢者については、5月10日から接種を開始し、お盆前に接種が完了する状況となっている。
- 村営戸田牧野の管理 4月30日に本年度の開牧を行った。細心の注意を払いながら育成管理に努める。
- 村営建設工事 村の単独事業と国の事業により工事を計画している。利便性の向上と安全確保に努める。
- オドデ館の改修 5月に仮設店舗工事の入札と契約を行い、9月の完成に向け、工事を進めている。



村政全般にわたって報告を行う晴山村長

教育行政報告

- 持続可能で良質な教育環境の整備 小・中学校と保育園の保護者を対象に教育懇談会を開催している。懇談会が終了したら、報告書として示したい。終了した会場では、本村の児童生徒数の推移から、持続可能で良質な教育環境の整備への要望が多く寄せられたことを報告する。
- 教員の資質向上 5月に学校訪問を実施し、面談、授業参観などを実施した。本村が目指す教育を理解し、実践するよう要請するとともに、各学校の校長による指導もお願いした。
- 学力向上 4月に開かれた学力向上推進協議会と学力向上推進委員会、さらには月に一度、村内すべての小中学校の教務、研究主任が集まり開催している会



教育行政報告を行う岩淵教育長

第2回定例会 こんなことが決まりました

専決処分の承認

▼固定資産評価審査委員会条例の改正
審査申出書等の書類への押印規定の見直しを行いました。

▼税条例等の改正
村民税における住宅借入金等特別税額控除の拡充・延長などを行いました。

▼国民健康保険税条例の改正
新型コロナウイルスの影響により収入が減少した被保険者等に対する減免の特例措置を延長しました。

▼令和2年度一般会計補正予算(第11号)
予算総額から1億9,273万4,000円を減額し、49億9,796万2,000円としました。

内容は、事業費確定による予算額の精査を行ったものです。(以下「令和2年度江刺家財産区特別会計補正予算(第2号)」まで、内容は「事業費確定による予算額の精査」です。)

◆主な質疑◆

問 繰越明許になったものは、令和3年度中に執行できる見通しなのか。
答 年度内執行に向け努める。

▼令和2年度国民健康保険特別会計補正予算(第4号)
予算総額から4,760万9,000円を減額し、6億5,127万8,000円としました。

▼令和2年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)
予算総額から1,38万9,000円を減額し、643万8,000円としました。

▼令和2年度索道事業特別会計補正予算(第4号)
予算総額から1,94万9,000円を減額し、1,594万4,000円としました。

▼令和2年度戸田財産区特別会計補正予算(第2号)
予算総額から12万1,000円を減額し、343万7,800円としました。

別会計補正予算(第3号)
予算総額から1,21万4,000円を減額し、562万1,000円としました。

▼令和2年度江刺家財産区特別会計補正予算(第2号)
予算総額から14万5,000円を減額し、607万6,000円としました。

※専決処分とは？
本来、議会で決定すべき事項(条例や予算など)を、緊急を要し議会を招集する時間的余裕がない場合などに限り例外的に、村長が決定することが出来ます。
専決処分後は、議会へ報告し承認を求めなければなりません。

人事

▼固定資産評価審査委員会の委員の選任に同意
固定資産評価審査委員会の委員に、細山武志さん(柿の木)を選任することに同意しました。
固定資産評価審査委員は、固定資産課税台帳に登録され

条例

▼中小企業・小規模企業振興基本条例
村内雇用環境の充実と村民所得の向上を促進し、持続可能で活力ある村を実現するため、村内中小企業者等の振興に関し基本理念を定めました。



細山 武志さん

た事項に関する不服の審査や決定を行います。任期は令和3年8月5日から3年間です。

◆主な質疑◆

問 この条例により、村民に利益や恩恵があるのか。
答 産業振興により雇用が増え、村民所得が向上することにより、定住促進につなげることができると考える。

補正予算

▼令和3年度一般会計補正予算(第1号)
予算総額に52,96万3,000円を追加し、54億8,275万5,000円としました。(詳細は2ページに掲載しています。)

▼令和3年度国民健康保険特別会計補正予算(第1号)
予算総額に12万3,000円を追加し、6億1,391万7,000円としました。
内容は、システム導入に係る負担金です。



議決事件

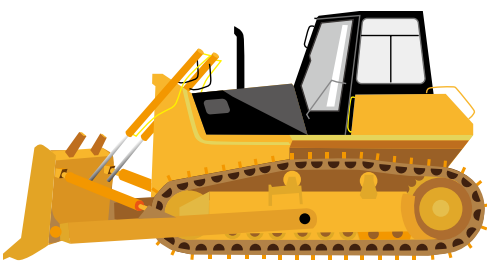
▼財産の取得に関する議決
① 村消防団第1分団に配置するポンプ自動車の取得を決定しました。
○品名 ポンプ自動車
○数量 1台
○取得価格 275万0円
○取得先 互光商事株式会社



◆主な質疑◆

問 車両の大きさ等を検討したのか。
答 使いやすさ等を協議し、現在の車両より小さいものに決定した。

② 除雪車が老朽化したことから、除雪ドーザの取得を決定しました。
○品名 除雪ドーザ
○数量 1台
○取得価格 203万2,800円
○取得先 コマツ岩手株式会社・三戸営業所



③ 小・中学校の学習環境の充実を図るため、電子黒板の取得を決定しました。
○品名 九戸村立小中学校用電子黒板
○数量 25台
○取得価格 131万7,400円
○取得先 株式会社システムベース

▼ふるさとの館条例の改正
施設の管理運営の安定を図るため、宿泊料や日帰り休憩料などの利用料金を見直しました。



利用料金を見直しがされたふるさとの館

◆主な質疑◆

問 利用料金を増額するものか。
答 あくまでも上限を定めるもので、実際の料金は指定管理者が十分検討して設定することとなる。

▼都市農村交流施設設置及び管理に関する条例の改正
交流促進センター(コロボックランド)の入浴料を見直しました。



入浴料金を見直しがされた交流促進センター

▼手数料条例の改正

個人番号カードの再交付手数料について、徴収する主体が、村から地方公共団体情報システム機構に変更となりました。

▼総合開発審議会条例等の改正

九戸村議会基本条例の施行に伴い、「議員は、法令等で定めがある場合を除き、村長等の附属機関の委員に就任しない」となったことから、該当する条例の改正を行いました。

議員は何をしているの？

議員や議会は何をしているの？という声を聞きます。
ここでは、議会や議員の主な活動状況をお知らせします。



4月

- 8日 北部地区議長会通常総会
- 27日 議会運営委員会、村政調査会
- 30日 議員全員協議会、議会広報常任委員会

5月

- 10日 折爪岳振興協議会監査
- 17日 県北地区監査委員協議会総会
- 18日 九戸村商工会通常総会
- 19日 議員全員協議会
- 20日 折爪岳振興協議会総会
- 21日 カシオペア連邦議会議員協議会監査・役員会
- 24日 町村議会議員研修会
- 25日 二戸地区広域行政事務組合議会臨時会
- 26日 村政調査会、議会広報常任委員会



4月27日に行われた村政調査会



活発な議論が交わされた6月定例会
(マスク着用などコロナ対策を徹底)

6月

- 7日 議会運営委員会
- 8日 九戸村防犯協会役員会
- 10日 二戸消防署九戸分署庁舎建設工事安全祈願祭
- 14日 岩手県町村議会議長会臨時総会
- 15日 令和3年第2回村議会定例会 本会議(議案説明)
議員全員協議会、村政調査会、各常任委員会
- 16日 東京2020オリンピック聖火リレー
ミニセレブレーション
- 18日 令和3年第2回村議会定例会 本会議(一般質問)
議員全員協議会
- 21日 令和3年第2回村議会定例会
本会議(一般質問、議案審議)、議員全員協議会
- 22日 九戸福祉会理事会
- 24日 九戸村B&G海洋センター安全祈願祭・開所式
- 25日 村政調査会
- 28日 九戸教育施設運営会理事会

議長交際費を公表します

月	お祝い・会費	
	件数	金額
4月	0件	0円
5月	1件	5000円
6月	0件	0円

議長交際費とは、議長が議会の対外的活動をするための経費です。各種団体の総会や式典の会費などが主なものです。



一生懸命仕事に励みました

職場体験
一戸高校の小笠原母さん(柿の木)が、7月30日に議会事務局で職場体験を行いました。
今回発行の議会だよりの校正作業などを行いました。

令和3年第2回定例会 議員ごとの賛否の状況

議案等 番号	議案名等	古舘 巖	川戸 茂男	坂本 豊彦	大崎 優一	中村 國夫	久保えみ子	保大木 信子	岩渕 智幸	渡 保男	山下 勝	桂川 俊明	櫻庭 豊太郎	採決の結果
議案	第1号	固定資産評価審査委員会条例の改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	承認
	第2号	税条例等の改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第3号	国民健康保険税条例の改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第4号	令和2年度一般会計補正予算(第11号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第5号	令和2年度国民健康保険特別会計補正予算(第4号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第6号	令和2年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第7号	令和2年度索道事業特別会計補正予算(第4号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第8号	令和2年度戸田財産区特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第9号	令和2年度伊保内財産区特別会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第10号	令和2年度江刺家財産区特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
議案	第11号	人事 固定資産評価審査委員会の委員の選任	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	同意
	第12号	中小企業・小規模企業振興基本条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	可決
	第13号	ふるさと館条例の改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第14号	都市農村交流施設設置及び管理に関する条例の改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第15号	手数料条例の改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第16号	総合開発審議会条例等の改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第17号	議決事件 財産の取得(消防ポンプ自動車購入)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第18号	財産の取得(除雪ドーザ購入)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第19号	財産の取得(電子黒板購入)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
	第20号	補正予算 令和3年度一般会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
請願	第21号	令和3年度国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	審査 継続
	令和3年第1号	安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための請願	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	

表の見方 「○」は賛成、「×」は反対、「-」は採決に加わらなかった。

※櫻庭豊太郎議長は、賛否が同数などの場合にのみ、採決に加わりません。



中村國夫 議員

体育センターへの 道路拡張整備を

村長▶ 協力が得られれば検討に入りたい

村長 「マイナンバーカード」による行政手続きのオンライン化「テレワークの推進」「セキュリティ対策の徹底」など、本村において達成しているのか。

村長 国や県からは、取組スケジュールが具体的に示さ

村長 今後、「書面規制、押印、対面規制の見直し基準」を作成し、この基準に基

づいた見直し対象の抽出、例規の整備、オンライン化に向けたシステム改修、職員の体制整備等の検討も想定される。迅速かつ効率的に進めるために、業務そのものの必要性も含めて、現在は情報収集を行っている。

村長 公共的ではないもので個人ではできないものを、地域が助け合って実施していくのが町内会の果たす役割ではないかと捉えている。

村長 今年度から3年間、自治会活動の推進と地域の活性化を目的とした地域振興交付金制度を創設した。自治会から担っていた部分について、村が連携して、側面から支えることができるような仕組みも検討していきたいと考えている。

村長 行政サービスを低下させずに、業務の効率化が図られれば、大きな成果につながるものと期待している。一方で、デジタル化を推進

できる専門的ノウハウを有する職員が極めて少ないことや、村内のマイナンバーカードの普及率が低く、オンラインによる行政手続きに十分対応できるのかといった課題もある。

村長 利用者の多い重要な路線であり、安全と利便

性を考えると、対応しなければならぬ路線だと認識している。

村長 役場職員によるプロジェクトを立ち上げ、情報収集や職員の勉強会から始めるというつもりでいる。

デジタル化で行政サービスはどう変わるのか



デジタル化で行政サービスはどう変わるのか



次ページからは

～村政を問う～ 一般質問に7人が登壇

6月定例会での一般質問は6月18日及び21日に行われ、7人の議員が一般質問に登壇し、活発な議論が展開されました。
掲載している内容は、紙面の都合で要約しています。
全文記録(議事録)は、村ホームページでご覧いただけます。

質問議員(質問順)	質 問 事 項	掲載ページ
中村 國夫 議員	○国道から村体育センター入口の道路拡張整備について ○村と町内会(自治会)との関係について ○デジタル庁の創設と自治体の対応について ○行政手続きにおける押印廃止と書面主義の見直しについて	9
川戸 茂男 議員	○小学校の統合について ○ナインズファームを解散し、ふるさと振興公社に統合することについて	10
岩淵 智幸 議員	○林業振興について ○村道の改良・改修について ○消防用防火水槽の増設について	11
山下 勝 議員	○第3次九戸村総合発展計画について ○災害対応について	12
坂本 豊彦 議員	○村政運営について ○定住促進に向けた公営住宅の整備計画並びに運営について ○教育振興について	13
久保えみ子 議員	○新型コロナウイルス感染症対策について	14
保大木信子 議員	○オドデ館の経営について ○福祉の充実について ○教育環境の充実について	15

一般質問とは、議員が村の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針などについて所信を聞き、報告や説明を求め疑問点をたずねることです。

※一般質問はアクリルパーテーションを設置したうえで、マスクをはずして行っています。



川戸茂男 議員

教育環境整備こそ私たちの使命

村長▶村民主導で村民が納得する形で

〇 急激に少子化が進行する中、教育環境の現状と課題をどう把握しているのか。

〔教育長〕 子どもたちや教員は、与えられた環境下で誠実に教育活動、学習活動に励んでいるというのが率直な感想だ。

学習活動において最も効果が高いのは、グループ討論や他の人に教え、教え合うという活動であり、最も効果が低いのは、従前の講義形態である。児童生徒同士の関わり合いは誠に重要で、これからさまざまな変化していくであろう学校教育において、いかにして本村の教育環境を対応させていくかは教育委員会に課せられた大きな課題であるとともに、われわれ大人の責務と考えている。

〇 村政懇談会や教育懇談会では、現状維持を望む声はほとんどなく、課題解決と将来に向けての教育環境の整備を求める声が多数だった。

村民の声に応える具体案を早急に示すべきと考える

が、今後のスケジュールを伺う。

〔教育長〕 教育環境の改善を求める切実な声は、出生数が激減していることによる将来への不安が大きいと感じている。

村民に将来の児童生徒数の推移を理解してもらい、どのような学校形態が望ましいか議論を深め、その後、村民アンケートなどを実施し、理解を得た上で、教育環境の方向性を早急に示していきたい。

〇 さまざまな子育て支援策と併せて、子どもたちのための教育環境を早急に整備することこそが、「住みたい村・住み続けたい村」の実現につながるのではないか。

〔村長〕 子どもたちのための教育環境整備を進めるということは、私も公言している。ひと口に教育環境整備と言うのが、学校の統廃合だけを指すものではないと思っている。もちろん、学校統廃合を含む再編を否定するものでは

〇 採算性と環境保持を両立し、持続的森林経営ができると言われている自伐型林業に取り組む際の、作業道新設や木材の搬出機械等、相当の経費負担に対し援助する考えはないか。

〔村長〕 地域おこし協力隊が実践している自伐型林業で出された課題や要望を生かしていきたい。負担軽減のため何が必要かを確認、精査し、森林環境譲与税の活用も含めて検討していきたい。

〇 個人での木材販売は少量のため、販売が困難だ。生産された木材を集積し、村

で業者に斡旋し、販売する方法も考えられるのではないか。

〔村長〕 県からの情報提供や、他の自治体の事例も参考にしながら、本村に合った方法を検討していきたい。

〇 県の補助が見込めない山林保育作業に対して、村単独の補助事業を策定して林業の振興を図るべきではないか。

〔村長〕 森林所有者への意向調査を実施し、需要を把握して、森林環境譲与税の活用も併せて検討したい。



岩渕智幸 議員

自伐型林業の初期経費に支援を

村長▶課題や必要な事項を精査する



所得向上と環境保全の林業振興を

ない。学校数は今のままでも良いと思っているが、統合を望むところは、すぐにでも進めて良いとも思っている。最終的には村民主導で、村民が納得する形で進めなければならないという考えた。

ふるさと振興公社とナインズファーム統合

〇 ふるさと振興公社にナインズファームを統合したことにより、公社内での位置付けや指導のための人事配置等はどのようになっているのか。

各担当者を交え、毎週、取り組み事項の進捗を図っている。

〇 村の特産品である甘茶と山わさび生産拡大のためには、既存の生産農家にも支援が必要ではないか。

〔村長〕 4月に営農指導経験がある職員を採用し、ナインズファーム担当者として配置した。IJU戦略室長を筆頭に、

〔村長〕 甘茶については、新規栽培農家向けの助成事業を予定している。また、公社による買い取り価格の見直しについても、JA甘茶生産部会と協議を行った。

山わさびについては、新たに生産しようとする場合、圃場候補地の山林整備が一番の課題とのことで、当初予算に計上したとおり、助成事業の実施に向け準備を進めている。

また、現在栽培している農家の声を聴き、できるだけ支援する方向で検討したい。



望ましい教育環境整備とは(写真=山根小学校運動会)

〇 多くの林道では、大雨の際に路盤流失などが起こる。丁寧な林道管理が必要ではないか。

〔村長〕 さらに監視を強化して、破損箇所の早めの修繕を心掛け、今まで以上に丁寧に維持管理に努める。

損傷している村道の早期修繕を

〇 村道戸田石沢線の未舗装区間は、大雨の際に素掘り側溝が埋まり、雨水が路面を流れる。舗装改良工事が必要ではないか。

行車両の損傷や事故につながりかねない。早急に改修が必要ではないか。

〔村長〕 道路改良を見込んだ法面整備と併せて改良舗装を実施して、災害に強い安心できる生活路線となるよう整備していきたい。

〔村長〕 段差の激しい箇所については、舗装打ち換え等を実施し、段差の解消を行うことにしている。村内全域の計画的な舗装修繕の実施と、定期的なパトロールを実施し、通行に支障がないよう維持管理補修を行ってきたい。

〇 村道の舗装路面の亀裂、舗装の剥がれなどは、通

火災の初期消火のため防火水槽を

〇 水利が不安なところに、防火水槽を増設していく必要があるのではない

火水槽の修繕を行い、地域の水利条件を考慮した適正配置を検討する。増設が必要な箇所については、優先順位を付けながら進めていく。

〔村長〕 村消防団とも協議しながら、能力低下の著しい防



山下 勝 議員

村総合計画に係る進捗状況は

村長▶ 交流・発信をはじめ取り組んでいる

問 第3次村総合計画に係る政策の進捗はどうか。順調な施策、プロジェクトは何か。

村長 交流・発信プロジェクトでは、地域おこし協力隊と地域おこし活性化起業人を迎え入れ、情報発信や商品の企画開発などに参画いただいている。

産業・雇用プロジェクトでは、オドデ館リニューアルに向けた調整のほか、農業の担い手育成の態勢づくり等を進めている。

子育て教育プロジェクトでは、村単独の子ども手当の支給のほか、伊保内高校への支援も強化している。

安全・安心プロジェクトでは、二戸消防署九戸分署庁舎の建設工事のほか、SNS等を活用した防災情報伝達システムを開始している。

地域コミュニティプロジェクトでは、地域振興交付金制度を創設して、地域の自主的な活動を支援している。

問 第3次九戸村総合計画を進めるにあたり、新たに生じた課題はあるか。

村長 新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた取り組みや事業も、延期せざるを得ない状況にもなっている。また、全国的に工事資材や設備の調達が難しくなっている。

問 施策の具体化に向け、住民が積極的に関わることが重要であり、その関わり方を明確にすべきではないか。

村長 住民と意見を交換できる機会を数多く持ちたい。関わり方についても、見直しを検討していく必要がある。

問 移住戦略の一つとして、サテライトオフィス等を備えたシェアハウスを提供し、さらなる移住促進を図っていくべきではないか。

村長 効果的に活用されるためには、需要調査等が必要と考えている。

村の災害対応は

問 地域防災組織モデル地区の実践の状況はどうか。

村長 高齢者などの独居世帯や支援ができる世帯の洗い出し、地域防災マップの作成を行った。今後でも取り組みを支援していきたい。

問 災害時の生活弱者の状況を把握しているのか。また、各自治会の体制を把握しているのか。

村長 年齢や障がい、介護度などの台帳をもとに状況把握に努めている。個別避難計画の策定を進めて、災害時要支援者の把握に努めていきたい。

各自治会の体制については、調査を行っていないが、村の会議などの状況等から、自治会役員の多くが高齢者と認識している。地域に対する支援や体制強化も検討事項にしていきたいと考えている。

問 災害時に備え、円滑な対応や運営を行うため、訓練が必要ではないか。また、これまでの実践や今後の予定についても伺う。



災害に備えた避難所訓練

村長 関係機関と連携して、住民への参加を呼び掛け、防災訓練を実施しており、今年は10月に予定している。そのほか、二戸・久慈・八戸の三圏域における応援物資・人員の調整訓練、県と連携した災害情報訓練などを行っている。

問 大規模地震の発生が予想される関東・東海地方の自治体と協定を結び、災害対応体制の構築を図っているのか。

村長 交流や情報交換を行える自治体について情報収集や情報発信に努め、災害時応援協定の参考事例を収集して、体制の構築につなげていきたい。

村長の公約実現に向けた考えは

村長▶ 強い覚悟を持って村づくりを進める



坂本豊彦 議員



入居許可期限がある若者定住促進住宅

若者定住促進住宅の払い下げ検討を

村長 農林畜産業の振興には、村独自の助成も実施してきたが、十分な成果を得るまでには至っていない。今年度からナインズファームの見直し、甘茶や山わさびの新植助成、肥育素牛の購入費助成などを行う。

問 公約の一つに、農林畜産振興に力を入れ、商工業とともに調和のとれた地元経済の振興と雇用の拡大を進めるとあった。このほか、さまざまな公約実現の成果と課題は何か。

村長 農林畜産業の振興には、村独自の助成も実施してきたが、十分な成果を得るまでには至っていない。今年度からナインズファームの見直し、甘茶や山わさびの新植助成、肥育素牛の購入費助成などを行う。

問 村総合計画の実現に向けて、どのように村政運営にあたるのか。

たは何らかの形で着手しているものもある。今できること、今やらなければならぬことを見極め、行財政の現状にも目配りしながら、強い覚悟を持って村づくりを進めていく。

村長 人口減少や少子化など危機的状況に直面している。今がラストチャンスととらえて、できることは何でもやるという思いで取り組んでいく。

複式学級が多い現状をどう考える

問 教育懇談会の資料で、複式学級のさまざまな課題が示され、子どもたちにとって、必ずしも良い教育環境とは言えないものだった。複式学級の割合が80%以上である本村の現状をどのように考えているのか。

村長 教育委員会が示しているデメリットの多くは、人口が多く社会資本整備が進んだ都市部と、そうではない地方との違いを認めない、制度そのものの弊害によるところが大きいのと感じている。日本は少子化傾向が当面続くと言われており、少子化社会に対応した教育方法の構築

村長 住環境や現在入居者と退去した方との平等性等を考慮し、現在のところ、払い下げについては考えていない。ただ、若者定住住宅の入居期間を満了して村外へ出ていく問題は回避しなければならぬ。定住してもらえぬ制度を前向きに検討したい。

が必要ではないかと考えている。

これまで、複式学級の解消を望む保護者が多いと聞いている。将来の本村の教育がどうあれば良いのかを村民と議論を重ね、合意を得た上で、より良い教育環境を整備していくことが重要と考えている。

今後は、小中一貫教育や小規模校など、それぞれの立場の専門家を招いて講演会やパネルディスカッションなど、村民が学校教育や多種多様な教育方法への理解を深めた上で、アンケートを実施して方向性を見出していきたい。



久保えみ子 議員

迅速なワクチン接種が重要

村長▶県や医師会へ支援要請を続ける

問 新型コロナウイルス感染症対策として、ワクチンの安全・迅速な接種が極めて重要だ。ワクチン接種を進めるうえで、どのような課題があり、どのように取り組んでいくのか。

【村長】 医療資源に乏しい県北地域においては、医師等医療スタッフの確保が大きな課題となっている。県の申し出による広域接種も実施予定であり、今後も県、二戸医師会等に、さらなる支援要請を続けたい。

高齢者のワクチン接種に係る申請手続きは、電話し



ワクチン接種に万全を期すため行われたシミュレーション

【村長】 県内の医療機関や介護施設においてもクラスターが発生するなど、予断を許さない状況となっており、こうしたケースは社会生活にも多大な影響を与えるものと認識している。

でもつながらないなど、うまくいかなかった部分はお詫びしたい。

村独自のPCR検査実施を

問 高齢者施設や保育園、学校などの職員のPCR検査を定期的に実施するなど、村独自の対策として、検査等による感染防止に取り組んでいくことが重要ではないか。

しかし、限られた医療資源の中で、症状のない方や感染者と接触のない方にまで、一律に検査対象を広げること、地域医療体制に混乱を招きかねない。本当に対応が必要な人への影響が及ぶ可能性も排除できないということが懸念されるので、臨床的判断を経ない方へのPCR検査については、現時点においては、残念ながら実施困難であると考えている。

問 コロナ禍で売上減少に苦しんでいる事業者への、さらなる支援が必要だ。2回目の持続化給付金等の支給を国に求める必要があるのではないか。

【村長】 令和2年度における新型コロナウイルス感染症の影響に関する支援は、商工事業者経営継続支援事業、地域企業継続支援事業、プレミアム付商品券交付事業がある。事業者の売上減少や家賃の支援、個人消費の喚起を行ったが、依然として改善の兆しが見えない状況にある。特に、飲食店は経営状況が厳しいと認識している。



コロナ禍で更なる支援が必要ではないか（写真＝伊保内地区）

村としても支援事業の継続が必要と考え、6月に終了予定だった村内飲食店による高齢者世帯への配食サービス事業を9月まで継続するため、補正予算を計上している。今後は、国の新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金等の動向を見ながら、必要な支援策を逐次、検討したい。

国の持続化給付金の申請は、令和3年2月15日で終了したが、事業者救済のためにも事業を継続してもらいたいと考えている。このことに関しては、県町村会政務調査会において、すべての町村長の意見が継続を強く要望することと一致した。今後、国に対して強く要望していく。



保大木信子 議員

振興公社のこれからの方向性は

村長▶生産者の売上向上と雇用拡大に貢献したい

問 オドデ館は、令和4年4月にリニューアルオープン予定で、売場面積を広げ、集客や増収が期待される。振興公社のこれからの方向性をどう考えているか。

【村長】 今年度から振興公社の事業を、収益部門と受託部門に区別して、分かりやすくしたい。

オドデ館やレストランなどは収益部門と位置付け、独立採算で赤字の解消と売り上げの拡大をめざし、村内生



令和4年4月にリニューアルオープン予定のオドデ館

産者や事業者の売上向上と雇用の拡大に貢献したい。ふるさとの館やふるさとの湯つ、ナインズファームなどは受託部門として、村の委託料を主要な財源として適切に運営していきたい。

問 リニューアルに伴い出品者の確保が必要と考えるが、高齢化が進み出品が困難になりつつある。そのことをどのように捉えているのか。

【村長】 出品者が新規参入しやすい環境を作り出し、村民所得向上につなげていきたい。

また、オドデ館への集客を一層促進することで、生産者や事業者の売上拡大につながり、自ら数多くの商品を出品したいと思えるような生産意欲・事業意欲を喚起していきたい。

高齢者が多い本村の福祉充実を

問 生活支援ボランティア「ご近所すけっ隊」の活動

がスタートしている。この活動が軌道にのるための資

金について、どのように考えているのか。

【村長】 「ご近所すけっ隊」の活動は、ボランティアの方にとっては、介護予防に資する活動でもあり、村の地域保健福祉活動支援事業による補助金を活動資金と見込んでいる。団体の運営費や活動費に不足が生じる場合は検討をしたい。

教育環境の充実についての考えは

問 保護者を対象とした教育懇談会で、どのような意見が出たのか。

【教育長】 村内の保護者全員から参加いただいた訳ではないが、現状維持を望む声はなかった。一刻も早い統合・再編を望む声が多かった。

問 村長は、村民の理解を得られたら、統合などの方向を決めると答えているが、どんな形で理解を得たと判断するのか。

【村長】 統合は、住民合意が一番大事だ。今後、いろいろな立場の専門家を招いて講演会等を開催し、理解を深めてもらうことを教育委員会と確認している。

そのうえで、学校統廃合を含む方向性を問うアンケートに先立って、理解を得られたかを確認するアンケートも必要なのではないかと考えている。丁寧な対応をしなければ村を分断し、将来に禍根を残すことになると考えている。

小さな太陽 =明日をひらく子どもたち=

キラキラ輝く瞳。大きな夢なら負けません。

このコーナーでは、そんな太陽のような目をした子どもたちに登場してもらいます。



九戸村の魅力

九戸中学校 3年
おのでら しおん
小野寺 詩温さん

私が考える村の未来、それは様々な世代の人たちが暮らしやすく、みんなが暮らしにくくなるような村です。そんな村にするためには、九戸村の素晴らしい特産品を発信していくことが大切だと思います。

九戸村には誇れる特産品があります。鶏肉はその一つです。九戸村の鶏肉は県内でも上位に位置する生産量です。この鶏肉を食べてみると、とても柔らかくておいしかったです。もう一つは、甘茶です。甘茶は、砂糖の二百倍の甘さですが、ほぼゼロカロリー、ノンカフェインのお茶で体にいいとされています。この説明を聞いた時、私は「こんなお茶があるんだ」と、驚きました。実際に飲んでみると、今までに飲んだことのない味で、とてもおいしかったです。このような「おいしくかつヘルシー」なお茶は、九戸村の魅力の

一つだと思います。みんなが暮らしたくなるような村にするためには、人口減少や少子高齢化等の課題と向き合いながら、村を気づける方法を考えていくことが大切だと思います。そのため、九戸村に若い人が帰ってくるのが大切です。私は、魅力の多い、この素晴らしい九戸村に帰ってこれたらと思います。



明るい未来へ

九戸中学校 3年
ほそかわ よしひと
細川 慶仁くん

僕は、この九戸村が大好きです。しかし、この村は年々少子化が進んでおり、近い将来消えてしまうかもしれないと聞きました。そこで、僕はその解決策を考えました。

それは、九戸村の自然の中にアスレチックを作るということです。現在のコロナ禍で、都市部に住む人たちは外出自粛などと思い切り体を動かすことがあまりできていません。そこで、観光やレジャーを目的に村への来訪者が増

えたとしても、住める場所がなければ定住を考える人は少ないでしょう。つまり、九戸村の住宅の存在も外部に知らせることも重要になってくると思います。これが僕の考えです。これはまだ個人の「意見」でしかありません。この村をより良い村にしていくために、仲間とともに小さな「意見」を「実行」に移していけたらいいと思います。

あとがき

岩手県では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が著しいことから、令和3年8月12日付けで、県独自の緊急事態宣言が発令されました。

改めて、今一度、一人ひとりができる対策を知っておくことが必要で、村民一丸となって感染拡大防止に努めていかなければならないと強く思っています。

議会広報常任委員 坂本 豊彦

◆発行責任者

議長 櫻庭 豊太郎

◆議会広報常任委員会

委員長 桂川 俊明
副委員長 保大木 信子
委員 坂本 豊彦
渡本 保男
山下 勝



元気いっぱい運動会を行った伊保内小学校児童